

第1回 岐南町まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 議事録（要旨）

日 時：令和6年8月8日（木）10:00～11:20

場 所：岐南町役場4階 会議室4-1

出席委員：益川浩一、丹羽貴彦、櫻井明、松原恵美、岩砂典子、傍島敬隆、野原弘康

事務局：安田悟（総合政策部長）、摂田真広（総合政策課長）、総合政策課員 2名

アドバイザリー（株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所） 1名

1 委員委嘱の発令

2 会長選挙

- ・互選により、益川委員が会長となった。

3 会長あいさつ

- ・岐南町の総合戦略には、平成27年の第1期から委員として関わっている。
- ・全国では、少子高齢化が進み消滅可能性自治体の話も出ている中で、岐南町の人口は維持しており、住みやすいまちと評価されている。
- ・審議会としては、各委員が共通認識のもと、議論を重ねていきたい。

4 議題（敬称略）

①岐南町人口ビジョンの見直しについて

（事務局）

- ・第2期人口ビジョンの策定の背景、今の人団の現状、合計特殊出生率、第3期人口ビジョン策定の方向性について説明した。

（委員意見）

- ・将来的には、岐南町の人口も減っていくが、第2期の人口ビジョンの推計値が社人研の推計値を上回っており、合計特殊出生率も上昇している。
- ・プラスの面がある一方で、岐阜県の下げ幅が非常に大きく、転入などの社会増は見込めない。こうしたことを勘案し、今回の人口ビジョンを考えていく必要がある。
- ・具体的に、若年、働いている世代、高齢者などの年齢層の推移や、その流出・転出も含めた傾向から読んでいく必要がある。
→（事務局）協議する素案では、年齢層に分け、詳細な分析や将来の人口推計を示す。
- ・子育てサロンの利用者数は非常に多く、転入してくる人も多い。
- ・転入者には、小さい町だが病院が多く、アクセスも良いとの認識があるようである。
- ・地価が高いため、子育て支援を受けられる間は岐南町の賃貸で暮らすが、その後は分からぬいという声も聞く。
- ・住み続けられる条件を知ることは、今後を見据える上で非常に重要である。
- ・ライフデザイン教育という視点も非常に大事である。
- ・定住という意味において、住宅環境を整えるためにはやはり住宅ローンの話になる。

- ・住宅ローンの負担が大きくなると、実質賃金が減り住宅ローンの返済が厳しくなることで、共働きをする家庭が増え、合計特殊出生率にも大きく影響してくる。

② 第2期総合戦略の効果検証と見直しについて

③ 第3期総合戦略の方向性について

(事務局)

- ・第2期の総合戦略の数値目標/KPIの実績に基づいて達成状況を説明した。
- ・デジタル化・DX化を手段的に捉えて、生活が良くなる、安心して生活できるようにするという視点を持って、KPIの設定を進める説明をした。

(委員意見)

- ・5年前と変わった部分もあるので、KPIを設定する項目数について考え直すといい。
- ・岐南町の障害者支援について、小さい町だが就労も事業所も増えてきており、障害者にとっていい環境になってきている。
- ・その他の大きな流れとしてSDGsや多様性が非常に重要視されている。
- ・岐南町ができた60数年前から、人口は伸び続けており、交通の便としての地の利があり、全域が平坦なため、防災上比較的安全である。
- ・住み続けたいまち、幸せ感を持ってもらえるまちにしなくてはいけない。
- ・議事録は、住民に公開していただきたい。
- ・総合戦略は、幸せの向上、ウェルビーイングのためのものである。
- ・実現可能性の高いものをしっかりと盛り込む必要がある。
- ・全ての住民が関わって広く意見を頂けるような環境が整っていることが大事であるため、透明性を高める目的で議事録を公開してほしい。
- ・世の中の変化が非常に激しい中で、SDGs、ゼロカーボンシティ、脱炭素などの施策や、こども基本法や認知症基本法といった法律の制定など、大きな動きを捉えておく必要がある。

→(事務局)議事録については、公開を前提に考えております。

5 その他

(事務局)

- ・今後のスケジュールについて、第2回は11月頃を予定している。

以上